

栃木県読書活動推進協議会第2回 議事録

- 開催日時 令和5(2023)年6月27日(火) 13時30分から15時30分
- 開催場所 栃木県庁本館6階大会議室2
- 出席者 栃木県読書活動推進協議会委員 9名(委員13名中)

1 開会

2 挨拶 長野 生涯学習課長

3 議事

－委員の互選により、中村委員が副会長に選出された。－

(1) 栃木県読書活動推進計画の素案について

－事務局から資料1～3について説明を行った。－

[委員]

- ・資料1の第1章に「読書バリアフリー法」の定義があるが、第2章の「読書バリアフリー」には定義がない。「読書バリアフリー」は一般化した用語なのか。

[事務局]

- ・「読書バリアフリー」は文部科学省のホームページでも使用されている。定義の記載については検討する。

[委員]

- ・文部科学省の公立学校における学校司書の配置率についての調査結果は、司書資格の有無にかかわらず、学校司書として位置づけられている職員の配置率を指すのか。

[事務局]

- ・そのとおりである。

[委員]

- ・指標2の公立図書館と学校の連携事業は現在も行われているが、どのように増加を目指すのか。

[事務局]

- ・毎年市町を対象に連携事業の報告を依頼しているが、多数の事業を報告する自治体がある一方で、1事業のみ実施の自治体も存在する。県としては、多くの事業を実施している自治体の事例を共有する機会を設け、県全体でその取組が活性化され

ることで、底上げができると思いと考えている。

〔委員〕

- ・事業数の増加だけでなく、事業の質を高めることについても配慮いただきたい。

〔委員〕

- ・LLブックの注釈の記載について、検討してほしい。
- ・県立図書館の記載について、現在、新図書館について検討が始まったところであるが、7年間の読書計画の内容により、今後の図書館の方針が縛られることにはならないか。
- ・学校における読書活動の現状について、学習指導要領の記載が分かりづらいので検討してほしい。

〔事務局〕

- ・読書計画は必要に応じて、計画期間中の見直しを想定している。県立図書館の記載についても、新しい図書館の方針が具体化していく中で内容の更新を検討したい。

〔委員〕

- ・指標1について、ライフステージに応じた取組に対する指標としては、調査は難しいと思われるが、幼少期と成人期の状況も把握すべきと考える。

〔事務局〕

- ・今回初めて県のネットアンケートを利用した成人向けの調査を行ったが、毎年読書の調査をすることは難しい。アイデアがあれば発言いただきたい。

〔委員〕

- ・各自治体のブックスタート事業、セカンドブック事業の実施状況の向上はどうか。

〔事務局〕

- ・既に多くの自治体で実施されているため、指標としては立てにくい。

〔委員〕

- ・ブックスタート事業を実施していると言っても、本を手渡していない自治体があると聞いた。本の配付があれば、家庭で読むきっかけになる。多忙な家庭は、図書館に行くことが難しいこともある。ブックスタートで本を配ることは重要だと考えている。
- ・就学前の子どもに直接調査することは難しいが、保護者がどのくらい子どもたちに

読み聞かせをしているか、図書館に足を運んでいるかなどを調査し、その状況の底上げを目指すのはどうだろうか。

[会長]

- ・ブックスタート事業として本を渡しても、読むとは限らない。本を活用するための事業の質の向上を目指すことは必要と考える。
- ・公立の保育所において、本に親しむ時間がどれだけあるかを調べることは可能だと思う。

[委員]

- ・図書館利用券から、図書館を利用している年代が把握できると思う。また、利用券の登録件数の変化を見ることで、おおよその読書に親しむ成人の状況を把握することができると思う。

[会長]

- ・指標1は、読書時間を基準にしているため、単純に比較はできないが、参考として把握することについては検討していただきたい。

[委員]

- ・第5章の読書バリアフリーの推進について、読書バリアフリー法との関係が分かりやすく明示されているが、他の章と比較すると違和感がある。

[事務局]

- ・今回策定する計画は、国の施策から見れば、子どもの読書活動の推進についての県計画であり、読書バリアフリー法に基づく県計画でもある。読書バリアフリー法の県計画として、法律の関係条文についての記載は残したい。

[委員]

- ・特別支援学校に勤務していた経験がある。委員に特別支援学校関係者がいるため、参考までに、特別支援学校における読書活動の現状について教えていただきたい。

[委員]

- ・盲学校・聾学校については、在籍者数が減少している。
- ・盲学校では、点字図書、録音図書を所蔵している。
- ・聾学校では、公立図書館との連携を実施し、定期便で本を借りている。
- ・在籍者数が減少し、人との交流、学び合いの機会が減少しているため、読書を通じて登場人物の気持ちを想像することは対話的な学習として重要と考えている。多

くの本に触れることで、疑似的にいろいろなことを感じたり、知識を得たりすることは大切と思っている。

〔委員〕

- ある特別支援学校では、図書室が十分に整備・活用されていないため、昨年度から、子どもたちの運営による、子どもたちが使える図書室を目指した取組を進めている。
- 県立図書館の協力を得て、学校の外を含め、子どもが利用したい図書館に行き、本を選ぶことができる状態になれることを模索している。
- 高等部の生徒が中等部の生徒におすすめ本を紹介できるような、活動の連鎖を作っていきたいと考えている。
- 読書ボランティアを近所の方に協力いただき、連携体制を作ろうとしている。

〔委員〕

- ある特別支援学校では、障害が重く通学できない児童生徒に対し、教員が家庭に向いて授業を行っている。
- 知的障害を持っている子どもに読み聞かせをすると、雰囲気を感じ取っていることがわかる。
- 外の世界と触れ合う機会が少なくなりがちであるため、読書をとおして知る世界は子どもたちにとって非常に大切である。

〔委員〕

- 障害のある子どもと一般の子どもが直接本をとおして触れ合う機会が少ないと感じる。特別支援教育課にインクルーシブ教育推進担当ができたので、読書の面からのインクルーシブができるとよいと思う。
- 障害がある子どもへの読み聞かせについて、大人は戸惑うことがあるが、子ども同士ではすんなり交流できてしまうことがある。

〔委員〕

- ある市では電子図書館に力を入れている。電子図書館登録者が利用している時間は、午前8時前後が非常に多い。これはおそらく小中学生がタブレットを使用して朝の読書の時間に本を読んでいるからではないかと思われる。
- 子どもの読書活動の推進には、電子書籍も有効であると思うが、県の計画では電子図書館や電子書籍に関する記述があまり見られない。県はどのように考えているか。

〔事務局〕

- ・電子図書館の導入にあたっては、検討中の新しい図書館の方針に関わるため、方向性が定まった後に触れることとしたい。

〔委員〕

- ・本に親しむ、本に興味を持ってもらうためのイベントはどのようなことを考えているのか。

〔事務局〕

- ・読書活動推進フォーラム、高校生ビブリオバトルの充実を目指す。

〔委員〕

- ・作家の話を県民が聞く機会があるとよいと思う。

〔委員〕

- ・県立図書館では毎年、作家等を招き文芸講演会を開催している。

〔委員〕

- ・幼稚園等での取組について、図書スペースの確保と図書の整備のみを行っても、子どもに本を渡さないと読まないと思う。環境作りとともに、保育士や幼稚園の先生が子どもと本をつなぐよう促すことも盛り込んでほしい。
- ・教職員の研修も必要であるが、教職員から保護者に読み聞かせをするよう働きかける研修になるとよい。
- ・学校の取組の支援について、学校の取組は学校によって差が大きい。取組をしていない学校への働きかけについて検討してほしい。良い取組の事例を共有し、全学校で活発になるようにしてほしい。
- ・家庭における読書習慣の形成について、家庭教育学級に読書に関する研修情報や講師情報を流してもらえるとよい。家庭教育学級で、読書に関する話をしてもらいたいと思っても、講師の先生が思いつかず、実現できないことがある。講師に連絡したいとなった時に、県立図書館が架け橋になってくれるとありがたい。

〔事務局〕

- ・保護者への支援については、家庭における読書活動の推進に記載したい。

〔委員〕

- ・公立図書館と学校の連携事業について、働き方改革もあり、学校の協力が得られない可能性がある。目標値を現在から倍増としているが、難しいかもしれない。

〔事務局〕

- ・先ほど、連携事業数の増加だけでなく、質の検討も必要だと意見をいただいた。連携による効果を周知しながら、質の高い連携事業を県内全体に展開していくことを目指したい。

〔委員〕

- ・子どもにデジタル機器ばかりを使わせると目や脳に大きな影響を与えると勉強会で学んだ。子どもへの電子書籍の推進について、全否定はしないが、積極的な推進はできないと考えている。

〔委員〕

- ・先行事例では、電子図書館の導入がきっかけで、学校図書館の利用も増えたという。
- ・電子図書館は本に親しむきっかけとしては有効だと思われる。

〔委員〕

- ・本以外の魅力的な媒体があるとのことであるが、メディアで紹介された作品の本が読まれることがある。メディアなどに関連させながら相乗効果を狙っていくことも効果はあると考える。

〔委員〕

- ・新聞について、NIE（教育に新聞を）が県内も定着しつつあるので、計画でも触れると良いと考える。

〔委員〕

- ・学校図書館の整備に関して、学校司書の役割や必要性について市町の理解を深める機会を設けてほしい。

（2）その他

－事務局から資料4について説明を行った。－